

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	Uooh! 療育ラボ 中野野方スタジオ		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年3月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2026年3月16日		～ 2026年3月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月29日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンツーマンにより、それぞれの子供に応じて、楽しく丁寧かつきめ細かな療育が強みです。</li> <li>また、子どもが楽しく集中して取り組めるようにプログラムの展開方法があることも強みです。</li> <li>保護者の方に療育内容を高くご評価をいただいている事も当事業所の強みとなっております。</li> <li>子どもが楽しく通所しております。</li> <li>運動療育ベテランスタッフ、専門的支援実施スタッフが多数在籍しているため、質の高い支援を行うことができます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団療育も個別療育もお子様1名に対し、1名の担当スタッフがつかめます。</li> <li>子どもそれぞれの好きな事、興味の分析と課題の分析を行っています。</li> <li>その分析を基に、子供それぞれが楽しく課題に集中できるプログラム展開方法を構築しています。</li> <li>特性に応じたプログラムの展開法、展開力の向上を図る研修を実施しています。</li> </ul>	<p>感動の瞬間があるプログラムのさらなる開発とそれぞれの子供に応じた発達段階の向上に向けた精度をさらに高め、より子供が楽しく、集中して、安心して取り組める場を構築してまいります。具体的にはプログラム開発の研修をさらに増やしてまいりたく考えております。また、プログラムをさらに深めるために、スタッフ個人の表現力を高め、スタッフ同士が繋がる研修を他の領域の方法論も包括して行っていきます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供の気持ちのわからない課題に対しても、楽しく気持ちを切り替え取り組むことができます。</li> <li>その時期、時期によって保護者の方が気になっている事、取り組んで欲しい事を柔軟且つタイムリーにオーダーメイドでプログラムに取り込むことができます。</li> <li>スタッフのホスピタリティー精神が高く、保護者の方のお悩みに懇切、丁寧、真摯に向き合う風土が根付いています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供それぞれの場面に応じた気持ちの切り替え法を研修にて共有しています。</li> </ul>	<p>切り替えの方法を動作からの視点、言葉かけからの視点、展開法からの視点、空間的な観点からの視点、心理的な観点からの視点毎に体系化を図ると同時に実際の現場に生かせるように研修、ミーティングを行ってまいります。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタッフ間の連携、チームワークが良く、事業所の雰囲気の良い事が強みです。</li> <li>その結果、スタッフが明るく楽しくプログラムを展開できることも強みです。</li> <li>スタッフの療育スキル、ホスピタリティー精神、協調性、明るさ、元気さ、個性の豊かさ、いずれの点においても、高い水準を持っている点が強みです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタッフ間の連携性を高めるロールプレイ研修を行っております。</li> <li>スタッフそれぞれの強みを生かした役割分担を行っております。</li> <li>立場を取り払い、それぞれの意見を出す平場の機会をつくっております。</li> </ul>	<p>引き続き、スタッフそれぞれの個性を生かすと同時に、全体の理念に沿った連携をさらに高めるために全体状況の共有、平場での意見交換、スタッフそれぞれの得意、強みを組み合わせた相互扶助体制の確立をさらに精度高く行ってまいります。</p>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNS等での情報発信</li> <li>業務のDX化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の事務作業の体系を、DX化する際に既存で販売しているDXパッケージと整合性が取れないことが課題となっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務をDX化し、業務効率化を図るために、既存のパッケージを使うのではなく、新規にシステム構築をする方向で検討しています。</li> <li>SNS発信は今後強化して参ります。</li> </ul>
2			
3			